



深沼 達生 議員

## 家畜防疫対策は万全か

町長 体制を整えて取り組んでいる

**問** 昨年から豚コレラウイルスが本州の各県で蔓延しており、農家の損害は莫大である。このような伝染病が本町だけではなく、北海道に入り込んでほならないと考える。

平成28年には、本町でも鳥インフルエンザが発生し、全部の鶏が殺処分された。

その後、蔓延することなく防ぐことができたが、サルモネラを含め、法定伝染病に対する防疫対策を町はどのように考えているのか。

**町長** 家畜伝染病の侵入を予防するため、町、農協、農業共済組合、普及センターで構成する「清水町家畜伝染病自衛防疫組合」を設置し、自衛防疫の推進により発生を未然に防止するとともに、発生時には迅速な防疫対策を講じられるよう体制を整えている。

この防疫組合では、予防対策および普及啓発のための広報活動、家畜伝染病に対する予防注射等の実施、伝染病発生畜舎・パドック等の消毒を行うほか、北海道等で開催する家畜伝染病の防疫に関する研修・講習会等での情報収集や必要に応じた生産者への情報提供等に取り組んでいる。

町としては、「清水町家畜伝染病自衛防疫組合」の構成機関・団体と連携し、法定伝染病に対する防疫対策に積極的に取り組んでいく。



鈴木 孝寿 議員

## 場当たりのな予算計上に疑問

町長 有効性や緊急性を重視している

**問** 年度途中における補正予算の計上が多く、計画的な政策の執行というよりは場当たりのな予算執行が多い。次年度以降の事務事業の基本的な考え方と、本年執行中の事業における検証をどのように生かしていくのかを伺う。

本町の人口が当初の予想と同じく令和2年度には実質9000人を切るという状況下において、この数年の動きに本町の未来がかかっている。今一度、町長が考える「マチの未来」を明確にして事業を実施するべきではないか。

**町長** 公約の達成に向けて着実に事業展開をするため、次年度以降も、社会情勢の変化に対応しながら行政課題を捉え、中長期的な視点から、各事務事業の有効性や緊急性を検討し、事業を進める考えに変わりはない。

総合計画との整合性を図り、本町の現状と課題を的確に捉え、目的を達成するために、手法が合理的なのか、効果が十分なのかを常に検討し、継続的に見直しをしていく。財政的な課題にも取り組みながら、見直すべき事業は丁寧に見直し、未来の子どもたちの選択肢を狭めることなく、すばらしい清水町を次世代に引き継ぎたい。

今後においても、本町の現状と特色、社会情勢の変化等、時代の流れに沿った取り組みを一つずつ着実に前に進めていく考えである。

## 少人数数学級の推進を

教育長 必要に応じて教員を増やす

**問** 9月の一般質問で「給食費の無償化は難しい」と答弁していたが、考えていた一部財源を基に、小・中学校全体において教員を増やし、さまざまな課題に対応できる教育環境をつくるべきだと考える。

幼保小中の連携はとれているが、幼保の職員数が足りていない現状を踏まえ、保護者の不安を払拭できるような小・中学校でのきめ細やかな教育環境づくりを推進するべきと考えるが、少人数学級について考えを伺う。

**教育長** 本町は、小・中学校1・2年生について20人程度の少人数学級を編成し、個



個に応じたきめ細やかな指導が行いやすい少人数学級

に合わせたきめ細かな指導により、生活面や学習面において成果を挙げてきた。

これまでの成果を踏まえ、学校との協議により、少人数指導や習熟度別指導が特に必要と認められる場合には、町独自で教員を配置していきたいと考えている。

## 冬季の災害対策は

町長 寒さ対策で避難所を開設

**問** 大雪でブラックアウトになった場合、暖房が使えない状態が長く続くと命に関わることになる。

高齢者にとって冬道は歩きづらく、避難所に行かない人もいると思われるが、町はどのような対策を考えているか。

大雪でブラックアウトになった場合、暖房が使えない状態が長く続くと命に関わることになる。

高齢者にとって冬道は歩きづらく、避難所に行かない人もいると思われるが、町はどのような対策を考えているか。

**町長** 寒さ対策として、各家庭で電気を使わない暖房器具を準備していただくとともに、避難所を開設し、命を守る対策を講じる。

**町長** 町内会の集會などで時間をいただくなど、あらゆる場面を利用し、自主防災組織の必要性を説明し理解していただくよう努める。



冬の停電時は、電気を使わない暖房器具が活躍